

園だより 10月

おのこの部分は分に応じて働いて体を成長させ、
自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

エフェソの信徒への手紙 4章 16節

やっと暑さが遠のきそうな気候になりました。

9月半ばには保護者の皆様にお手伝いいただき、今年度のプール仕舞いができました。残暑厳しい時間に沢山のお支えをいただき有難うございました。そして、その日の午後には数年ぶりに幼稚園の遊具の塗り直しなど「館内ワーク」も行われました。在園児、卒園児、保護者の皆様、大勢の方々が様々な想いをもちながら遊具を塗っておられる様子に心温まり嬉しいひとときとなりました。広い園庭が戻ってきた幼稚園。待ってました！とばかりに子どもたちの心と体の動きがより活発になり、あちらこちらで子どもたちの「やりたい」が表現されています。その様な様子を見守りながら、夏を超えての子どもたちの心の成長をそこここで感じました。お友だちの存在が本当に大事になってきている年少組さん。ある朝、お母さんと別れがたく、涙涙のA君。園庭とロビーの間の扉の前で、帰っていかれたお母さんを追って泣き叫んでいました。保育者はその気持ちに寄り添いつつ、泣きたい思いを受け止め見守っておりました。「どうしたの？」と心配そうに問いかける年中さんがいました。「悲しいんだよね」と共感する年長さんがいました。それぞれの優しさを感じながら、私は少し離れたところから見守りました。その時、同じようにA君から少し離れたところでいつも一緒に遊ぶB君の姿が目にとまりました。いつも何かに挑んでいる元気なB君が、そのときは眉を八の字にして泣いているA君をじっと見つめていました。それから、少しずつ少しずつ近づいていく様子。A君が少し泣き疲れた頃、傍らにはじっと座るB君の姿がありました。そこには一言の言葉もありませんでした。けれども友だちを思うB君の心もちが確かに見て取れました。そしてA君にしっかり伝わっていました。幼稚園で初めて出会ったお友だち。毎日の生活を共に過ごす中育まれる豊かな想い。傍らに居てくれるだけでお互い穏やかな心になる関係。素敵だな、嬉しいな、大事にしたいな、と心から思いました。小さな小さな出来事の積み重ねで、ゆっくりと豊かに子どもたちの育みは成されます。その成長を見逃すことなく思いを注いで、爽やかな秋晴れの10月の日々も過ごして参りたいと願います。宜しく願い申し上げます。

園長 駿河 幸子